

令和2年度学校評価計画

学校名	鹿島市立鹿島小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<p>【①学力の向上】各種調査結果から、本校児童の実態として、自分で考えて自分で行動するという主体性がやや低いことがわかった。教師の問いに答える受動的な学習から自分で問いを見つけ、解決しようとする主体的な学習への転換を図る必要がある。本年度は、児童の学ぶ意欲が高まる授業づくりを研究し、主体的に学ぶ児童を育てていきたい。</p> <p>【②いじめ防止】「いじめはどのクラスにも起こりうるもの」という意識のもと、高いアンテナを張り、いじめの早期発見・早期対応に努める必要がある。そのためには、児童の安らぎの場となる学級づくりを行い、心に響く道徳授業や学級指導の充実を図る。本年度も、定期的に学級経営会議を開き、組織としての学級経営支援を行っていききたい。</p> <p>【③特別支援教育の充実】特別支援教育Coを中心に、組織としての支援体制づくりをさらに強化していく必要がある。また、支援を必要とする子どもにとって分かりやすい授業は全ての子どもにとって分かりやすい授業であることを意識し、通常の学級においても特別支援の視点を生かした環境設定・指導の工夫を行っていく。</p> <p>【④危機管理】前年度は、鹿島高校生や地域との連携による避難訓練を実施することができたため、児童の防災意識を高めることができた。本年度は、児童を取り巻くあらゆるリスクを想定し、危機の未然防止、危機発生時の迅速かつ的確な対応、再発防止など、普段の生活における教職員の危機管理意識と実践力の向上を図る。</p>		
2 学校教育目標	いのち輝く 鹿島っ子の育成～キラ、ニコ、ドンの鹿島っ子～		
3 本年度の重点目標	<p>①学力の向上 ②心の教育の充実 ③健康教育の推進</p> <p>④生徒指導と安全教育の徹底 ⑤特別支援教育の推進</p>		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
	重点取組		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を75%以上にする。	・マイプランの一覧を作成し、校内研修の一部で紹介し、マイプランを共有する。 ・定期的に校内研修のはじめの時間をふり返りの時間に設定する。
	○児童の学ぶ意欲が高まる授業の実践(校内研究の充実)	○国語科を中心に授業づくりに関する研修や研究授業を行い、意識調査において、授業が楽しいと答える児童の割合を令和元年度より5ポイント上げる。 ○授業づくりのステップ1・2・3を意識し、ステップを1から2へ、2から3へ上げることでできる教師を80%以上にさせる。	・事前、事後の研究の充実を図り、児童の興味・関心を高める授業づくりを探る。 ・授業づくりのステップ1・2・3を継続して意識できるようセルフチェックタイムを2ヶ月に1度設ける。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○命や人権について考える授業や集会を行い、保護者アンケート「学校は心の教育や命の大切さなどを熱心に指導している」において86%を目指す。	・友達の優しい言動を見つけたら葉っぱに記入して貼っていく「やさしさの木」の取組を年間通して行う。 ・12月に「ふれあい道徳」を設定し、保護者も一緒に考えてもらう場面を設定するなど、参加型の授業づくりを行う。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○年2回(5月、10月)、心のアンケートを実施し、「学校が楽しい」と答える児童の割合を80%を目指す。	・困り感や侵害意識のある児童を把握し、早期発見、早期解決を図る。 ・教育相談週間を設け、児童一人ひとりの思いを受け止める。
	◎目標達成に向けて努力しようとする態度の育成	◎「一歩実行」に意識して取り組むことができる児童を85%以上にする。	・1年間毎日続けて取り組むあてを全児童に決めさせ、振り返る習慣をつけて、自分のめあてを日々意識させる。 ・取り組み続けている児童を紹介する場を設け、取り組みが続かない子へも声かけを行っていく。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	・車による送迎を控えるように保護者に呼びかけ、登下校による歩行時間を確保する。 ・休み時間の外遊びを促すために、県のスポーツチャレンジを活用する。学校独自の「鹿島っ子チャレンジ」の取り組みで表彰するなど、児童の意欲を引き出す。 ・給食センターから講師を招き、食育指導をする。 ・給食集会を開き、児童が食を大切に考える場を作る(食に関するアンケート2回実施)。
	○よりよい生活習慣を求める児童の育成	○生活習慣の改善が見られる児童60%	・「早寝・早起き・朝食・メディア(使用時間)・家庭学習」の5項目について学期に一度100点運動を行い、生活リズムの改善を意識させる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定(毎週水曜日)及び確実な実施(会議等は16:45に終了する) ・教職員の時間外勤務について1ヶ月あたり前年度比5%削減する。 ・会議資料の事前配付と提案時間の設定 ・積極的な未然防止指導と保護者への確実な説明等、迅速かつ組織的な対応
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○基本的な生活習慣の定着	○語先後礼のあいさつ、元気のよい返事、静かな廊下歩行、無言掃除ができるようになる教育活動	○語先後礼の挨拶や元気な返事ができる児童80%以上。 ○無言掃除ができる児童85%以上。 ○静かに廊下で過ごせる児童80%以上	・全校朝会等で、前月の生活反省や実践的指導を行うことで実践への意識付けを行う。 ・全校挙げての挨拶運動を行い、その振り返りを自己評価させることで、自らの良い挨拶への実践意欲を高める。
○安心・安全な学校づくり	○危機管理意識の高揚	○危機管理マニュアルの周知徹底及び施設設備や教育活動の安全チェックを定期的に実施する。 ○児童の交通事故0をめざす。 ○避難訓練及びその事前指導等を通して児童に危機回避能力を身に付けさせる。	・年3回の避難訓練等の安全指導を強化し、教職員間の危機管理マニュアルを共通理解する。 ・防犯ボランティア、警察署、交通指導員との連携を強化し、情報を共有することで児童の安全を確保する。 ・登校の自己評価及び定期的な集団下校を実施することで、交通安全への実践的態度を養う。
○特別支援教育の充実	○個に応じた指導、支援の充実	○個別的教育支援計画・指導計画、支援シートの作成100%。 ○特別支援教育に関する専門性の向上。 ○情報共有を定期的に行う(月2回)。	・個別的教育支援計画・指導計画、支援シートの作成のための研修を行う。作成する期間を決めて取り組む。 ・年4回、特別支援教育に関わる研修会を実施し理解を深める。 ・校内支援委員会を中心に、連絡会や学級経営会議等でも定期的に情報共有の機会を設ける。連絡会では、テーマを決めて行う。